

いきなり 社長に！？

IKINARI INTERVIEW

A 班: 飯沼・浦邊・反町

はじめに

私達はインタビューをお願いする企業の候補を挙げる際に、常に**身近**にあって、自分たちの**楽しみ**を支えてくれている企業に着目しました。そこで班員のアルバイト先である株式会社ペッパーフードサービスの代表取締役を務めている一瀬様、株式会社オーディオテクニカの代表取締役社長を務めている松下様にお話を伺う機会を頂きました。

プロフィール

○株式会社ペッパーフードサービス

「いきなり！ステーキ」や「ペッパーランチ」等のステーキを中心とした外食産業企業である。低価格で高品質なステーキを売りにしており、特に 2013 年に展開した「いきなり！ステーキ」は初出店から現在に至る僅か 4 年で国内 116 店舗を急速展開し、そして先月 2 月にはステーキの本場であるアメリカのニューヨークに念願の初出店を果たした。2015 年度外食企業（店舗売上 50 億円以上）店舗売上伸び率が 69.7%で 1 位となり、また外食上場企業売上では 2 年連続で 1 位となるなど今最も成長している外食チェーンである。

代表取締役 **一瀬 邦夫** 様

1942 年、静岡生まれの現在 74 歳。母子家庭で育ち、高校卒業とともに東京・赤坂の山王ホテルなどでコックとして修業し、27 歳で独立。51 歳のとき、「スタートの遅れを取り戻すブレイクスルーの武器として“素人でもすぐに調理できるシステム”」を開発。低価格ステーキチェーン「ペッパーランチ」を立ち上げる。2013 年には“立ち食いステーキ”という新しいジャンルを確立した「いきなり！ステーキ」を展開した

○株式会社オーディオテクニカ

ヘッドホンやスピーカーの音響機器、映像機器メーカーとして国内外で活躍している。ヘッドホンは国内シェア 8 年連続首位を誇っており、素晴らしい音質とグッドデザイン賞を受賞するほどの洗練されたデザインを兼ね備えている。マイクロホンに関してはオリンピックで使用されたり、有名アーティストのマイクからカラオケやホームビデオに使用されるマイクまで担っている。その他では業務用機器としてのりまきメーカーやすしメーカーなども製造しており、その活躍の場は幅広いものになっている。

代表取締役社長 **松下 和雄** 様

1948 年、福井県生まれの現在 68 歳。オーディオテクニカ創業者松下秀雄の長男で、日本大学生産工学部卒業生であり、卒業後は日本ビクターに入社。1974 年、26 歳でオーディオテクニカ入社し、1993 年 45 歳の時にお父様から社長を引き継ぎ、就任後は売上を 1.5 倍にも伸ばした。

(インタビューには広報宣伝課の方が一名同席してくださいました。)

インタビューの内容



Q1. 20 歳のころは何をしていたか

一瀬様： 高校を卒業してそのままホテルで一生懸命仕事をしていた。その当時は「日本で五本の指に入る**コック**」を目標に日々精進していたが、時間がたつにつれてその夢は薄れてきてしまい、仕事は一生懸命に続けていたものの、賭け事や遊びに夢中になってしまっていた。

松下様： 大学在学当時は大学紛争が起きていたりしてあまり学校へは行っていなかった。クラブやサークルにも入っておらず、すごく勉強をした！という思い出もなく、ほぼレポート等で単位を取得していた。**車**が好きなので、ガソリンスタンドでアルバイトをしていて、趣味で車の改造もしていた。その影響で将来は車の関係の仕事に興味があった。しかし創業者の長男ということもあり、オーディオの知識は十分にあったので雑誌を読んだりしながら、部品を自分で調達して音響機器を改造することもあった。通学の電車で本をよく読んでいた。

Q2. 今の若者にアドバイスするとしたら



一瀬様： 裏表のない、周りの人に好かれる人間になるように努力をすること。そのためには**挨拶**をしっかりする、常に**笑顔**でいることを忘れない、周りに対する**気遣い**を欠かさないことが大事である。また、人に見られていない時こそ人を作るので、トイレを使用した後は綺麗にし、自分が使ったものの後片付けもしっかりと行うことで気遣いのできる人間になれる。成功するには、人と違ったことをすること、まだ誰もやっていないことに勇気をもって**挑戦**することが大事。みんなが踏み出していないところにまずは一歩前に勇気をだして進むこと。人の真似だけをしていても大きな成功はつかめない。自分で道を切り開き、危険を冒さなければ次へは進めない。

松下様： **本**を読むこと。学生の時にたくさんの本を読んできたが、それが今に役立っていると感じる。当時は今のような情報社会ではなかったので本が唯一の情報収集源だった。おすすめの本はカルロスゴーン著の書籍。

学生時代に大学紛争のために勉強が思うようにできなかったということもあり、勉強をもっとしておけばよかったと後悔しているので、今の学生には特に**英語**を勉強してほしい。現在仕事をする中でとても英語を使うことが多いので自然に使わざるを得ない状況だが、学生の頃から勉強したほうが良い。日本人の傾向として、間違いや発音の違いを恥ずかしがってなかなか英語を話さない人が多く見受けられるが、下手でもいいから使わないと上達しないし身につかないので、失敗を恐れずどんどん英語を使うべきである。

また、オーディオテクニカでは新入社員へ英語力の他に、**思考能力**を持った即戦力や**人とうまく付き合っていく力**を求めている。

Q3. 上に立つ人間として心がけていることは



一瀬様： 周りの人間に好かれること、この人についていきたいと思ってもらえること、そして常日頃から目標をもって**前に前に進み続ける気持ち**を忘れないこと。自分が前に進む気持ちがなければ従業員はついてこない、会社は成長しない。

松下様： **一人では何もできない**ということを念頭に置き、社員一人ひとりがいきいきと持っている能力を発揮できるような環境を作ることを心がけている。

当社では人とのつながりを大切にしており、社内はアットホームな雰囲気、3 か月に一回納会を開いて様々な役職の社員が意見交換をすることができる場を設けている。（「社員同士の距離が近く若手でも自由に発言できるような伝統がつくられていて、とても働きやすい会社だ」と、同席してくださった広報宣伝課の方は仰っていました。）



Q4. 人生の目標は

一瀬様： **従業員がこの会社に入ってよかったと思える会社**にすること。74 歳という普通ならばもう静かに余生を楽しむ年だけれども、まだまだ社会のために活躍し、従業員を率いて最前線で仕事をし続けていきたい。モットーは「ローマは一日にしてならず」

松下様： モットーは「**よき人生は日々の丹精にある**」であり、地道に真心をこめて努力することが人生をより良いものにするという意である。人生に目標やゴールのようなものは無く、日々常に勉強である。何もしないでいても時間は過ぎてしまうので、その時間を大切にすべきである。

インタビューを終えて

私たちがお二人のお話から学んだことは大きく分けて以下の三つの事の大切さです。

① 地道な努力

若いうちから沢山の情報や知識を蓄え、些細なことでも真心を込めて取り組む。

→ ・本をたくさん読む ・大学での勉強を怠らない

② チャレンジする勇気、行動力

人と違うことをすることを恐れず、また失敗や間違いを恥じず、目標を掲げ前へ進む。

→ ・社会人の方や外国の方など、自分と違う環境で生活している人と積極的にコミュニケーションをとる

・いろいろなものに興味をもち、思ったことはすぐ行動に移す

③ 周りの人への感謝

家族や友人、先生などに対し感謝の気持ちを忘れずに生きる。

→ ・小さなことでもお礼をかかさない ・思いやりをもって行動する

また、お二人のモットーは「ローマは一日にしてならず（意：大事業は長年の努力なしに成し遂げられることはない）」と「よき人生は日々の丹精にある（意：日々の努力が人生を良いものに）」であり、言いまわしは違いますが、どちらも「日々の努力」を重視した言葉です。違う業界で活躍されているお二人ですが、心がけていることが同じということを知り、とても驚きました。これを受け私たちは、これからの日々をコツコツと、一瞬一瞬を無駄にしないように努力していきたいと思いました。

最後に

今回『20 歳のころ』という企画で、二人の日本が誇る有名企業の社長を務めている方から貴重なお話を聞くことができ、とても良い経験になりました。社会人、また人生の大先輩として、日常で心がけるべきことや、社会に出てから人の役に立つための術を教えてくださいました。

お忙しい中私たちのインタビューの為に時間を割いてくださった一瀬様、松下様、本当にありがとうございました。お二人から教えていただいたことをこれからのゼミ活動や学生生活、就職活動やその後の人生に活かしていきたいと思います。今回のインタビューに協力し携わってくださった皆様に感謝し、心よりお礼申し上げます。